

## 3-5. 宮古市（岩手県宮古市）

### (1) アドバイザー派遣申請の背景

閉伊川地域の上流から下流までを体験フィールドとした森川海体験交流事業、震災復興事業として外部の専門家等の支援を受けて開催したエコウォーク大会を実施している。

### (2) アドバイザー派遣の概要

日 時	平成 25 年 1 月 29 日（火）～平成 25 年 1 月 30 日（水）
場 所	<b>【現地視察】</b> 宮古市区界地区（森の体験活動場所、区界高原ウォーキングセンター付近） 宮古市茂市地区（川の体験活動場所、りば一ぱーくにいさと付近） 宮古市赤前地区（海の体験活動場所、堀内漁港付近） <b>【報告検討会】</b> 宮古市役所分庁舎
アドバイザー	株式会社南信州観光公社 代表取締役社長 高橋 充 氏
参加者	<b>【現地視察】</b> 森川海体験交流事業実行委員会事務局、体験実践者 計 3 名 <b>【報告検討会】</b> 森川海体験交流事業実行委員会構成団体、体験実践者等 計 13 名。
スケジュール・方法	<b>【1日目】</b> 実行委員会事務局等（体験実践者）と現地視察 体験型観光とのマッチングのアドバイス、新たな体験メニューの提案等のアドバイス <b>【2日目】</b> 報告検討会、 森川海体験交流事業の報告反省会 森川海体験交流事業の報告反省会 ワンバス対応に可能な体制づくりの助言、アドバイス 体験受入コーディネートの提案等のアドバイス 体験実践者との地域ネットワークを通じた連携づくり 森川海体験交流事業の新メニューの提案等のアドバイス 将来的には教育旅行に対応できる運営体制づくり 等



### (3) アドバイスの内容

---

#### ●現地視察時

##### (新たな体験活動の提案について)

- ・ 道の駅やまびこ館を会場に南部木挽き唄大会があるようだが、南部木挽き唄体験をしても良いのではないかと。木挽き唄の歴史を学んだり、実際に唄ってみてもらっても良い。また、閉伊川を利用しやすいように関係者との調整を図ることが重要である。
- ・ 1泊2日を想定した体験スケジュールの移動時間について  
→移動時間は大体4時間位は問題ないと思われる。宮古到着が遅くなった場合には、翌日の体験メニューにもよるが事前に参加者が取り組めるものがあれば良い。



#### ●報告検討会

##### (参加費用とスタッフ体制について)

- ・ 森川海体験交流事業での参加費1,000円は妥当であるが、事業の誘客を図る場合だと安いと思われる。教育旅行につながるのであれば、安全確保は勿論のこと、バス1台で複数箇所をまわる体験を検討しても良い。素材はたくさんあるのでプログラムは作れると思う。約200人が民泊に来るが、複数の体験に分かれて取り組んでいる。今のままの交流事業として続けていくのか、旅行会社等に商品として売り込んでいくのか検討が必要だが、実際活動しながら進めていけば良いと思う。子どもが対象の事業のようだが、企業研修や人材育成向けの商品も視野に入れると良いと思う。

##### (閉伊川をキーワードとして行ったが、長野県の天竜川ではどのような体験があるのか)

- ・ 川でのラフティング、溪流釣り、稚魚の放流等があり関係機関との調整を行っている。体験実践者との地域間の連携が必要となる。

### (4) アドバイザー派遣の効果

---

#### ●参加者や関係者に与えた効果

- ・ 体験活動が地域にもたらす効果として、人のつながり、この地域にしかないもの、地域の暮らしに関わっていることが感じられました。

#### ●今後の期待される効果

- ・ 教育旅行に向けたワンバス対応や体験実践者、地域との暮らしに関わる活動を展開していきたいと考えます。

## (5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

---

### ●参考となった事項

- ・ 民泊に関する内容では、地域事情にもよりますが、実際の受入体制やプログラム、料金体系等の紹介があり、参考になりました。

### ●その他感想

- ・ 官民協働で一緒に取り組むことが重要であることが分かりました。より幅広い協力を得るためには、当該地域の豊かな自然を活かしたエコツーリズムの推進が地域へもたらす効用について、観光事業者、プログラム提供者以外にも情報発信する必要があるため、商品化を目指すことも必要であることが分かりました。



## (6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

株式会社南信州観光公社 代表取締役社長 高橋 充 氏

### ●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状

盛岡駅より路線バスで約 50 分のところに位置する区界ウォーキングセンターにて、上記実行委員会事務局の宮古市商業観光課おもてなし観光担当の 2 名と合流して打ち合わせを行った。そこで将来的には教育旅行の受入を目指したいこと、受入窓口体制としては宮古市観光協会が望ましいと考えていることを確認した。「森の体験」として閉伊川の水源トレッキング、兜明神岳登山、落ち葉コースター作りの説明を受けた。次に道の駅やまびこ館で昼食となったが、昼食場所としては 120~150 名程の収容能力が見込まれた。また、木挽き唄や大根の煮しめの全国大会も開催されているとのことだった。その後、リバーパークにいさとに移動し、「川の体験」について、さんりく ESD 閉伊川大学校より体験内容の説明を受けたが、バスの寄り付きや、川の流れ及び遊水場の確保等、川で遊ぶ楽しさも加味した川辺での環境学習を行うための条件的には最高レベルだと感じた。ただ、震災の際にウェットスーツ等の道具や保管場所が流されてしまったとのことで、その辺の対策を講じる必要はある。最後に「海の体験」について海生物レプリカ作り&藻場干潟の会場の視察を行い、加えて浄土ヶ浜のビジターセンターやレストハウス、田老地区の学ぶ防災のフィールドの視察も行った。沿岸部にはやはり震災の爪痕が痛々しく残っており、そうした中でも前を向いて新たな事業にも取り組んで行く姿勢の必要性を感じた。

### ●アドバイス（講義等）の概要

翌日 10:00 からの意見交換会には各地漁協、森林組合、商工会議所、PTA 連合会、ESD、環境省、宮古市の各関係者 15 名ほどが参加した。森・川・海体験交流事業の実施報告を行ってから、南信州での教育旅行の受入について、利用先、民泊の受入体制等について質問が出た。また、地元の学校関係者から地域を知る機会としても有効との意見や、宮古には豊富な自然があり、その自然を活かせるようなメニュー作りやそれに伴った整備が必要という意見も出た。教育旅行を受け入れるにはまだまだ時間が必要で、地道に経験を重ねることが大事だとの声もあった。自分からは、既に交流事業を手掛けているという事実があり、一步前に進んでいるので、臆せず教育旅行を誘致するための努力をしてもらいたいこと、これから震災を乗り越えて行く経験そのものも財産となり、企業や組織の人材育成研修の場としての企画も可能であり、そうしたことが受け入れられる所がこれから必要とされるのでともに前を向いて頑張ろうとの話をした。

### ●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

宮古市の交流事業はまだ始まったばかりであるが、前向きに捉えている方々がおり、そのまま前を向いて進めて行けば、道は開かれるものと思う。具体的には都心から盛岡駅までは 2 時間少々なので、そこから 1 時間前後に位置する区界ウォーキングセンターや道の駅やまびこ館で、水源トレッキング（雨天時：コースター作りと森林の機能を学ぶ講座）や、木挽き唄講座、大根煮しめ料理作り、野菜の植え付けや収穫体験等を選択制で行い、午後 3 時頃に宮古市内に入り、学ぶ防災ガイドを全員で受け宿舎に入る。翌日は閉伊川での川辺の環境学習、川流れ体験&レスキュー講座や、藻場干潟観察、さっぱ船体験等を選択で行い、浄土ヶ浜レストハウスや道の駅での昼食といった流れで 120 名程度なら充分受入が可能かと思われる。まずは宮古市おもてなし観光担当と実行委員会で、誘客パンフレットを作り、首都圏や札幌の旅行会社へアプローチを試みるのが良いのではないだろうか。